

痛い 在宅医 (仮)

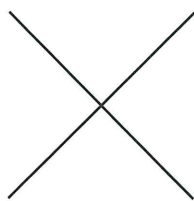
(ブックマン社)

映画化決定!

原作

長尾和宏

(長尾クリニック院長)



監督・脚本

高橋伴明

エンドロールに名前を載せませんか!

映画「痛い在宅医(タイトル仮題)」ご支援ご協力をお願い

「病院」か「在宅」か

この物語は患者と家族、そして医者との物語である。

命あるものには必ず死が訪れる。それを誰も止めることは出来ない。

少子高齢化と核家族化に歯止めが効かなくなっている現代日本。高い経済成長を遂げ、あらゆる分野において世界トップクラスの裕福な国になった今も尚、意外にも人は自分の死に場所や死に方を自由に決めることは出来ないのではないかと。医学の進歩に伴い、「延命治療」が可能になった。そこにはかつてあった自然な死は最早存在しない。

昔の日本は死に方を選ばなかった。生き方も同様かもしれない。しかし選択肢が広がったはずの今も、人は死に方を選ばないジレンマ、アイロニーを抱えてはいないだろうか。一見矛盾するようであるが、このことに本作は向き合いたい。誰でも死ぬ時は苦しみたくな。しかし現実とは? 本当の尊厳死とは? 平穏死とは?

抗がん剤を拒否したこと、がんサバイバーとなり病院を彷徨うことになった末期の肺がんの父。最期は平穏死させたいと、父を自宅で看取ろうと決めた娘。しかし、在宅なら叶えられると思った平穏死はうまくはいかず、父は苦しみ抜いて逝った。娘から泣かれ、責められた在宅医。彼は、痛恨の思いで自分に足りなかったものは何かを問い、先輩の町医者を訪ねた。病気だけを診るな、人間をまるごと見ろと町医者は彼に伝える……映画で初めて描かれる、在宅医療のリアル!!! 家族の覚悟、医師の覚悟の先に、「痛くない死に方」は、あった。

在宅医療のスペシャリストであり実際に尼崎市で在宅医として活躍をされている長尾和宏著のベストセラー『痛い在宅医』をモチーフに高橋伴明監督によって完全映画化。大切なのは、どこで死ぬか、よりもどう死ぬか。

2025年に団塊世代が75歳を超え、後期高齢者人口は約2000万人にも及ぶ。超多死社会=「死に場所がない」未来が目の前に迫っている今、全国民必見の作品となることは間違いない。

2019年春～夏で撮影予定

企画プロデューサー:小林良二(株式会社渋谷プロダクション代表取締役)

1口 10,000円～ 何口でもご協賛いただけます。(2020年2月末日迄)

特典

1口の方 ▶ 完成披露試写会へのご招待(1口につきお一人)、エンドロールにお名前を記載

2口以上の方 ▶ 1口の方の特典+ホームページとパンフレットにお名前を掲載

10口以上の方 ▶ 2口の方の特典+劇場用ポスター・パンフレット・チラシ・撮影用台本プレゼント

申し込み方法は以下協賛金申込書に必要事項記入していただきFAXもしくはメールにて本書を送信いただけますようお願い致します。その後、以下金融機関の口座へ振り込みいただけますようお願い致します。振り込み手数料はご負担いただけますようお願い致します。

| | | | |
|-----|--|------|---------|
| 振込先 | 名義:痛い在宅医映画化実行委員会 代表 小林良二 (イタイザイタクイエイガカジッコウインカイ ダイヒョウコバヤシリョウジ) | | |
| 支店名 | 三菱UFJ銀行 渋谷中央支店(店番号345) | 口座番号 | 0797779 |

※もし、何らかの事情で映画化が中止される際は協賛金は返金させていただきます。問い合わせ先:小林良二 携帯:090-4182-8704 メール:shibuyapro@clock.ocn.ne.jp

申込書(FAX用)

FAX:03-5226-9599(ブックマン社内)

| | | | | |
|--------------------------|-------|-----|-----|---|
| 申込日 | 年 月 日 | 協賛金 | 口 | 円 |
| エンドロールに記載する 個人・企業・団体名 | | | | |
| ご住所 | | | TEL | |
| メールアドレス | | ご要望 | | |